

# いせえび太平洋中・南部系群（小笠原諸島周辺海域）

## 評価対象種：アカイセエビ（小笠原諸島海域）



令和8年4月

### 資源の水準と動向「不明」

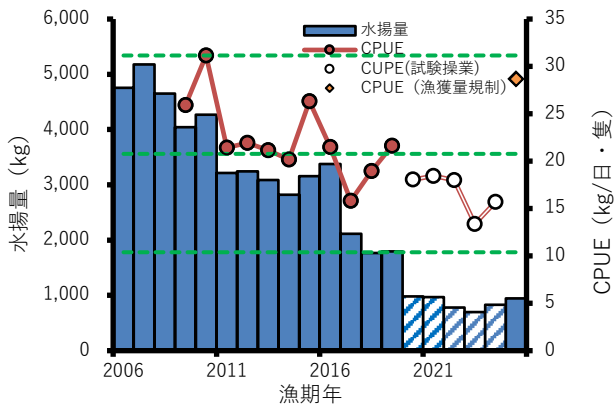


図1 水揚量とCPUEの推移

（父島では2020～2024年は試験操業のみ、2025年からは漁獲量規制）

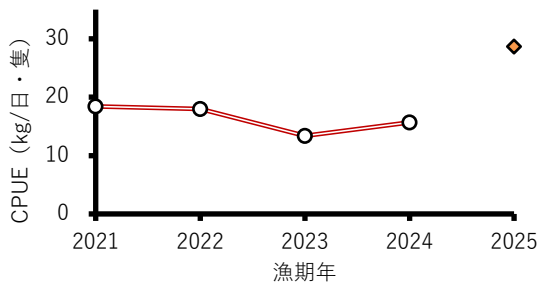


図2 アカイセエビ籠CPUEの年変動率

（父島では2020～2024年は試験操業のみ、2025年からは漁獲量規制）

2006年以降の小笠原諸島海域におけるアカイセエビの水揚量は2007年以降減少傾向であり（図1）、小笠原島漁業協同組合（父島）では2020年～2024年まで自主禁漁とし、標識放流を目的とした試験操業のみ実施した。2025年は上限を1トンとして漁業を再開した。

2009年以降のCPUE（アカイセエビ籠漁業1日1隻あたりの水揚量）は、増減を繰り返しながら徐々に減少している（図1）。直近6か年は試験操業及び漁獲規制を設けているため、参考値とした。

本資源評価票での資源の水準と動向は、小笠原島漁業協同組合で2020年～2024年の操業が試験操業となっていること、2025年から漁獲量規制を設けていることから、「漁獲方法が変わらずに収集された連続する資源量指標値」による判断ができないため「不明」とした（図1,2）。

### 生態学的特性

- 分布・回遊：小笠原諸島を中心に生息している<sup>1)</sup>。
- 年齢・成長：孵化した幼生は約1年の浮遊生活を送った後に着底し、その後は頭胸甲長が100 mmに達するまでに雄では約7年、雌では約10年かかるとされている<sup>2)</sup>。
- 成熟・産卵：小笠原海域では、夏季に産卵盛期を迎える<sup>2)</sup>。
- 被捕食関係：飼育下においては魚類や貝類を摂餌する<sup>2)</sup>。

### 東京都におけるアカイセエビ漁

- 漁業：小笠原諸島の各島において第一種共同漁業権の対象種であり、重要な磯根資源となっている。
- 漁法：父島では籠、母島では籠および手鉤を用いた潜水漁業により漁獲される。
- 管理：東京都漁業調整規則において採捕禁止期間（6～8月）や全長等の制限（全長\*22 cm）が規定されている。また、第一種共同漁業権行使規則において、操業期間を制限するほか、漁具・漁法の制限や体長制限等が定められている。東京都資源管理方針に基づく資源管理協定を策定し、父島ではいせえびかご漁業において自主的資源管理（禁漁期間の設定・漁獲量の総量規制）に取り組んでおり、さらに父島における水揚量が減少していることから2020～2024年は自主禁漁を実施した。

\*全長は目のつけ根から尾の末端まで

- 1) 東京都小笠原水産センター. 2005. 「アカイセエビ」の成長. 海洋島, 7 (2).
- 2) 東京都島しょ農林水産総合センター. 2021. 小笠原におけるアカイセエビの成長～アカイセエビ採集・飼育試験～. 令和3年度東京都島しょ農林水産総合センター主要成果集.